

ふれあい

第61号

グループホーム草加
草加市長栄町560
平成26年5月吉日



応急手当



三角巾

三角巾はもちろん、ストッキングや衣類など身近な物を利用しての応急手当の講習会を行いました。



ストッキング



衣類

母の日・父の日会



菊千会による日本舞踊を楽しみました。ご家族との昼食は本当にうれしそうでした。母の日の起源はさまざまですが母に贈る赤いカーネーションの花言葉は『母の愛情』で、母の想いを忘れないように とのことでした。



まだまだ

甘くておいしいイチゴもぎたては格別！！



甘い！



余裕



いちご狩り♪



うまい

さて、一番食べたのは誰かな？



認知症

ある介護施設に入所している九十才の女性は、今まで家事一切を引受け、家族に尽くしてきた方で、5、6年前から物忘れが目立つようになり、最近では直前の事も忘れず、同居していた孫娘一家に子供が生まれたため、女性を介護できなくなり、施設に入りました。

入居後「家に帰りたい」と訴えが始まりました。介護スタッフは「迎えに来るまで待ちましょう」「ご家族に連絡してみますね」など、その場しのぎの対応をしていました。

徐々に訴えはひどくなり、お泣きをしたり「死んでやる」などと言うようになりました。物忘れはひどいものものしかりした方でした。

「帰りたい」の訴えは「私がいないと家

が回らない」という心配からでした。精神科を受診しましたが、精神科では薬で治療するべきでないと薬はもらえませんでした。施設スタッフは今後の対応を話し合い「お孫さんは子育てが忙しいので、しばらくここに居てほしい」と、本場の事情を伝える事にしました。

その後、女性の様子は劇的に変わり「帰りたい」の訴えはありませんが、表情から陰しさが消え、笑顔が見られるようになりました。その場しのぎの対応をせず、本人の想いに向き合い、本場のことを伝えることで心を開いた関わりができたように思います。スタッフは言います。

「これが本人本位のケアの第一歩ですね。これから、生き甲斐を持って暮らして頂けるよう工夫します」と。

新入居者様



4月5月のお誕生者

おめでとうございます！

よろしくお祈りします

編集後記
新緑が清々しい季節となりました。梅雨入り前のこの時期、利用者様と散歩に出掛けたり日光浴・外気浴をして外気に触れる機会を心掛けています。何よりも『笑い』のあふれる施設を目指して…。

編集者 林 横川